

**2014年3月期
第2四半期
決算説明資料
(2013年4月～2013年9月)**

2013年11月14日(木) 決算説明会発表資料

東洋合成工業株式会社

1 . 2014年3月期 第2四半期 決算概要

■ 2014年3月期 第2四半期 決算のポイント

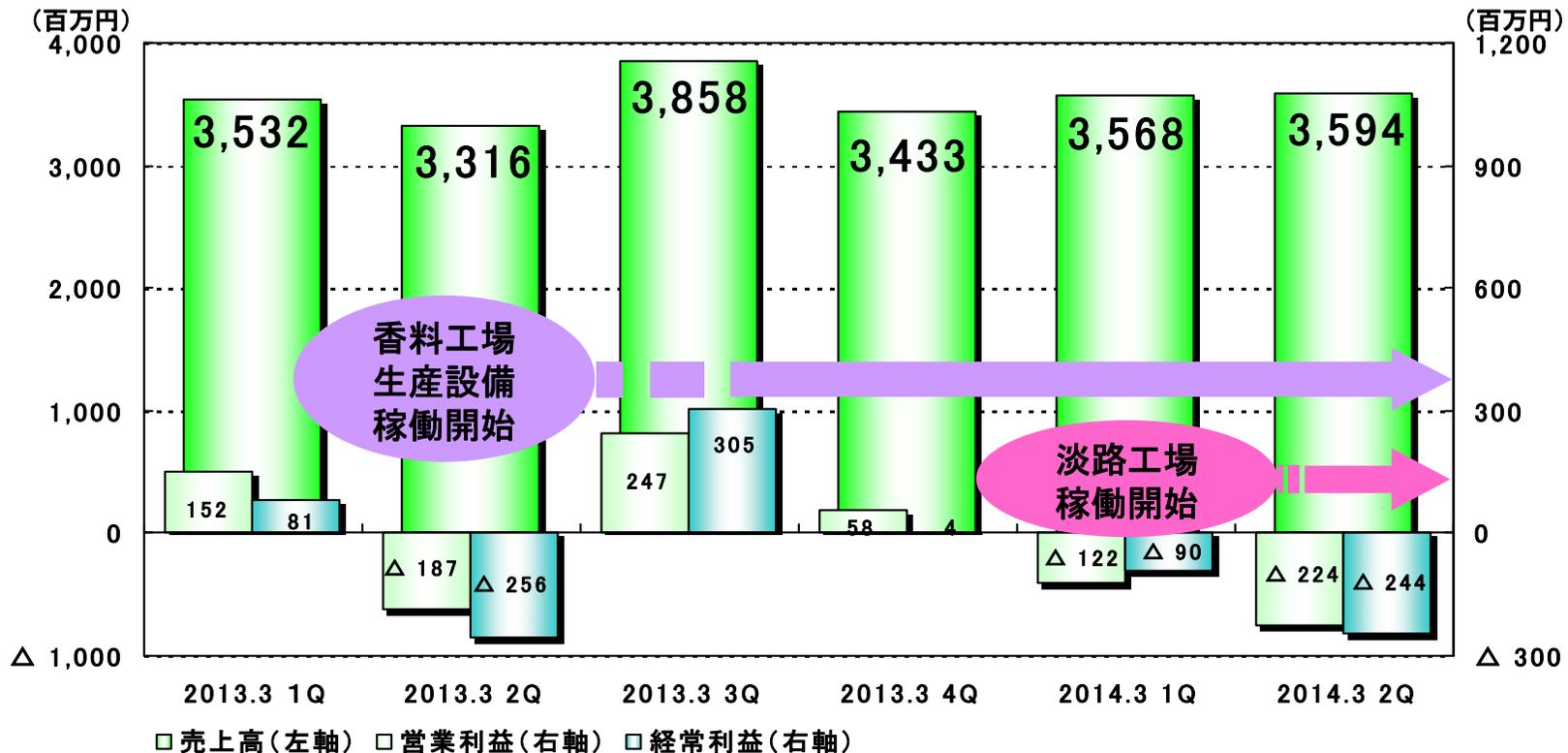
- ・ 売上高は前期比+4.6%、上期計画進捗率95.5%
 - (感光材) フォトレジスト用感光材が液晶向け・半導体向け共に好調。エネルギーも微増。
 - (化成品) 香料部門とロジスティック部門は横ばい、グリーンケミカル部門は低調に推移。
- ・ 経常利益は△335百万円(前期比161百万円減少)
 - (感光材) 感光材部門が利益率上昇。エネルギーの減少分をカバー。
 - (化成品) 香料部門、グリーンケミカル部門ともに新工場の固定費負担増加が利益を圧迫。ロジスティック部門は好調に推移。

科目 (百万円)	前期 実績 (A)	当期 実績 (B)	上期計画 ※ (C)	(B)-(A) 前期比 増減率	(B)/(C) 対計画 進捗率
売上高	6,846	7,162	7,500	+4.6%	95.5%
営業利益	△34	△346	△50	—	—
経常利益	△174	△335	△50	—	—
当期純利益	△207	△345	100	—	—

※2013年5月10日発表

■ 全社 売上・営業利益・経常利益 四半期別推移

- ・売上高： 上期の実績としては、過去最高水準。
- ・経常利益： 感光材は増益基調。しかしながら、化成品の新工場の固定費増加により全社で赤字。



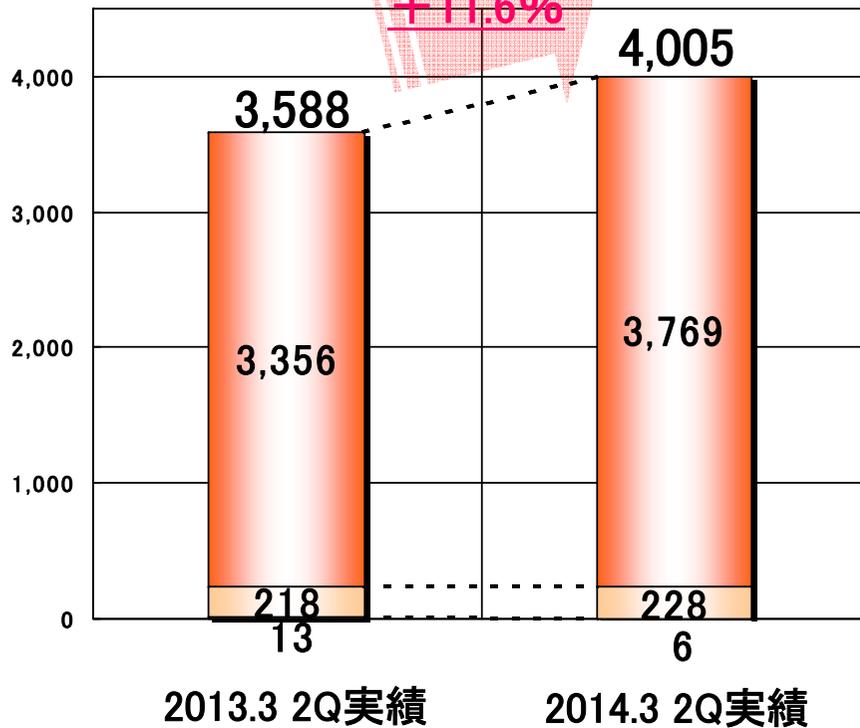
■ 感光性材料事業 売上高・営業利益

売上高: 前期比11.6%増 営業利益: 前期比+189百万円

- 感光材部門は、液晶向け・半導体向け共に好調。円安も寄与。
- エネルギー部門は、売上微増するも利益が減少。

■ 売上高

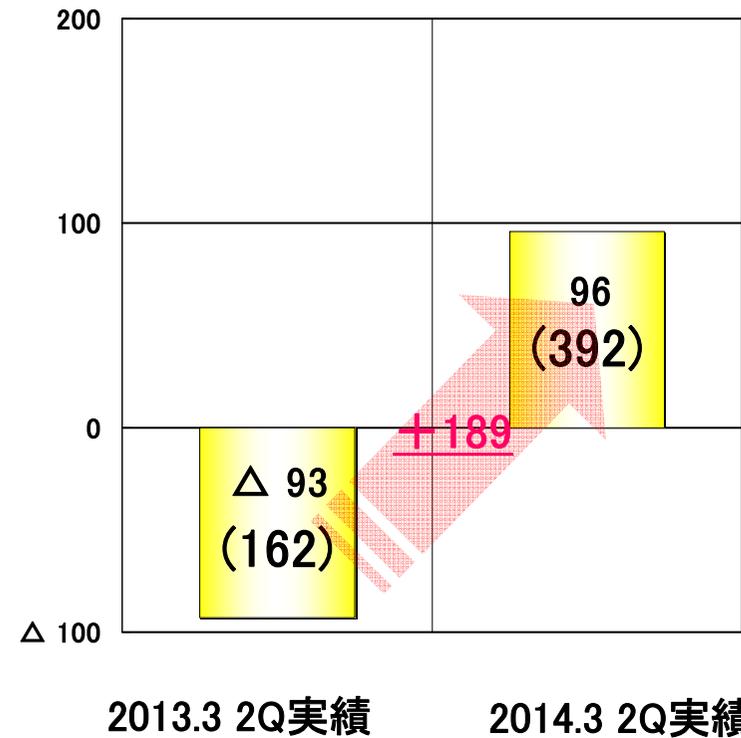
(百万円)



□トランスパレント □エネルギー □感光材

■ 営業利益

(百万円)



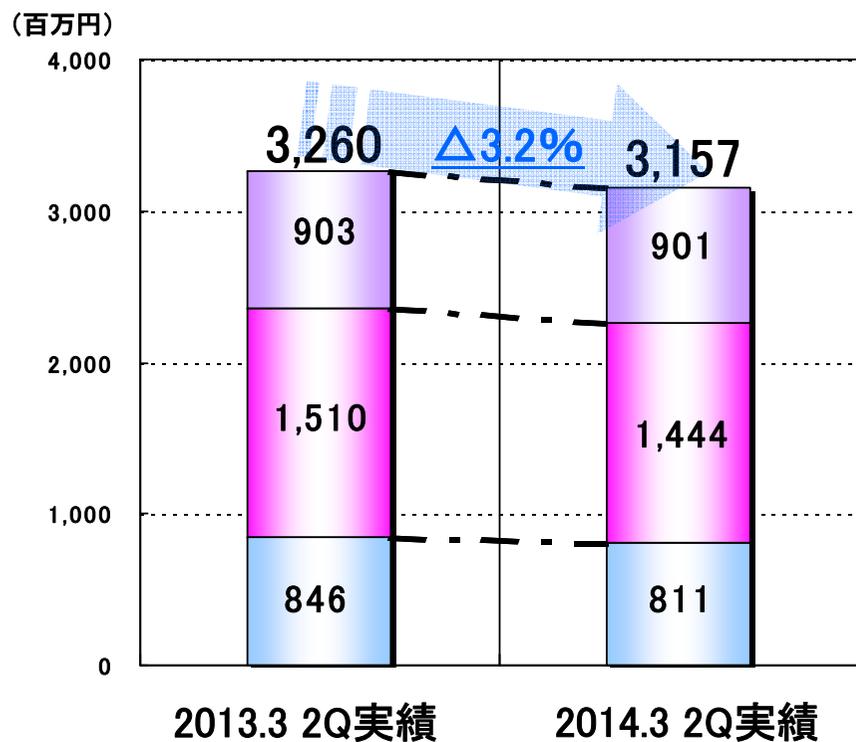
※()内の数値は感光材部門の利益

■ 化成品事業 売上高・営業利益

売上高: 前期比3.2%減 **営業利益: 営業赤字を計上 (前期比△501百万円)**

- 香料部門は、受注状況は回復傾向にあるものの、香料工場の稼働率向上が課題。
- グリーンケミカル部門は、国内電子部品向け溶剤需要が低迷。淡路工場の固定負担増加。
- ロジスティック部門は、売上は微減も、タンク稼働率を高水準に維持し、利益は堅調に推移。

■ 売上高



□ ロジスティック □ グリーンケミカル □ 香料

■ 営業利益



2014年3月期 第2四半期 連結損益計算書

- ・売上原価： 新工場建設により、労務費・減価償却費等が約4億円の増加
- ・販売管理費： 本社移転費用(6月)の発生、研究開発費の増加(+60百万円)
- ・営業外収益/費用： 収益：本社移転補償金(+32百万円) 費用：為替差損が発生せず

科 目 (百万円)	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	6,849	7,162	+313	+4.5%
売上原価	5,710	6,212	+502	+8.8%
売上総利益	1,139	950	△189	△16.6%
販売管理費	1,174	1,297	+122	+10.5%
営業利益	△34	△346	△312	—
営業外収益	37	132	+95	+255.7%
営業外費用	177	120	△56	△31.9%
経常利益	△174	△335	△160	—
特別利益	0	7	+7	—
特別損失	13	6	△6	△51.7%
税引前当期純利益	△188	△334	△145	—
法人税等・少数株主持分利益	19	11	△8	△42.8%
当期純利益	△207	△345	△137	—

■ 2014年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

- ・流動資産：売上債権＋342百万円(2Q売上増加影響)、棚卸資産＋138百万円(下期の売上増加対応)
- ・固定資産：大型設備投資は前期末までに計上、今期は減価償却の進行により固定資産△338百万円
- ・負債：有利子負債＋13億円(淡路工場向けの借入金の影響)、その他は設備未払金の減少影響

科目 (百万円)	2013年 3月期末	2014年 3月期 第2四半期	増減	科目 (百万円)	2013年 3月期末	2014年 3月期 第2四半期	増減
流動資産	9,824	9,791	△32	負債	23,197	23,189	△8
現金預金	1,669	1,311	△357	買掛債務	2,039	1,770	△269
売上債権	2,268	2,611	+342	有利子負債	16,942	18,303	+1,361
棚卸資産	5,470	5,609	+138	その他	4,216	3,116	△1,100
その他	415	259	△155				
固定資産	19,943	19,604	△338	純資産	6,570	6,207	△362
有形固定資産	19,013	18,655	△358	株主資本	6,555	6,186	△369
無形固定資産	312	336	+24	評価・換算差額等	14	20	+6
投資・その他	617	612	△4	少数株主持分	—	—	
資産合計	29,768	29,396	△371	負債・純資産合計	29,768	29,396	△371

■ 2014年3月期 第2四半期 連結キャッシュフロー計算書

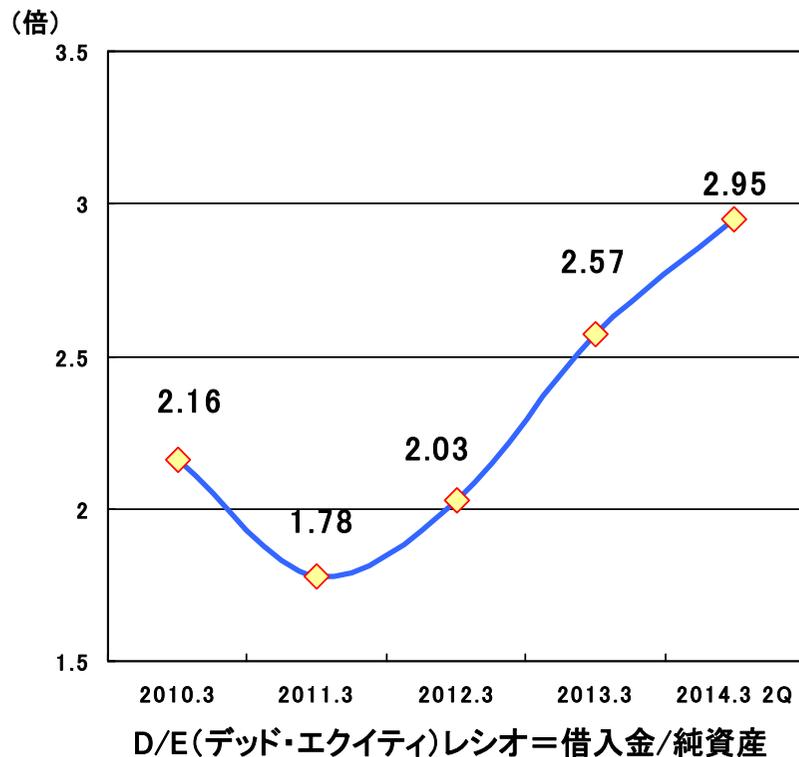
- ・営業CF： 売上債権の増加は、第2四半期の売上増加を反映
たな卸資産は、下期の受注増加に対応し増加
- ・投資CF： 淡路工場設備の支払いは上期で完了

科目 (百万円)	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるCF・・・(A)	931	△93	△1,025
税金等調整前純損失	△188	△334	△145
減価償却費	626	914	+287
売上債権の増減額(△は増加)	198	△342	△540
たな卸資産の増減額(△は増加)	294	△138	△432
仕入債務の増減額(△は減少)	△37	△269	△231
その他	39	76	+37
投資活動によるCF・・・(B)	△2,213	△1,510	+703
フリー・キャッシュフロー(A+B)	△1,281	△1,603	△322
財務活動によるCF	956	1,309	352
現金及び現金同等物の増減(△は減少)	△328	△287	40
現金及び現金同等物の期末残高	970	881	△89

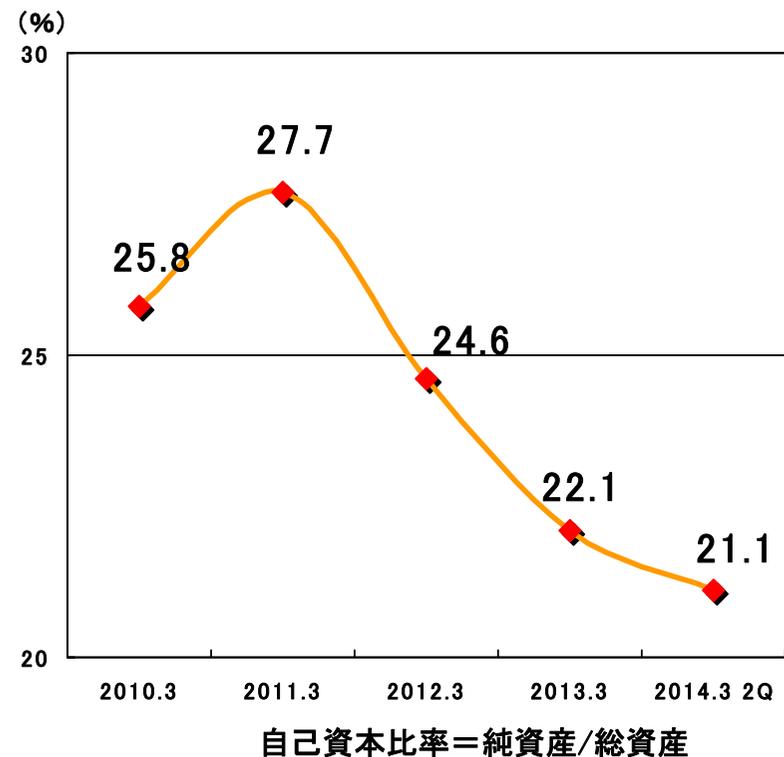
■「D/Eレシオ」・「自己資本比率」の推移

- ・当四半期末で借入金が183億円、D/Eレシオは2.95倍へ上昇
- ・今後は大型設備投資の計画がないため、総資産額を300億円前後を維持
⇒ 来期以降は利益の積上げを図り、両指数とも改善する見通し

■ D/Eレシオ



■ 自己資本比率



2. 2014年3月期 通期見通し

■ 2014年3月期 業績予想

- ・売上は、通期149億円。(前回発表予想値比△11億円)
- ・経常利益は、通期△5.7億円(前回発表予想値比△4.7億円)
(香料工場の稼働向上、淡路工場の早期稼働開始が課題)

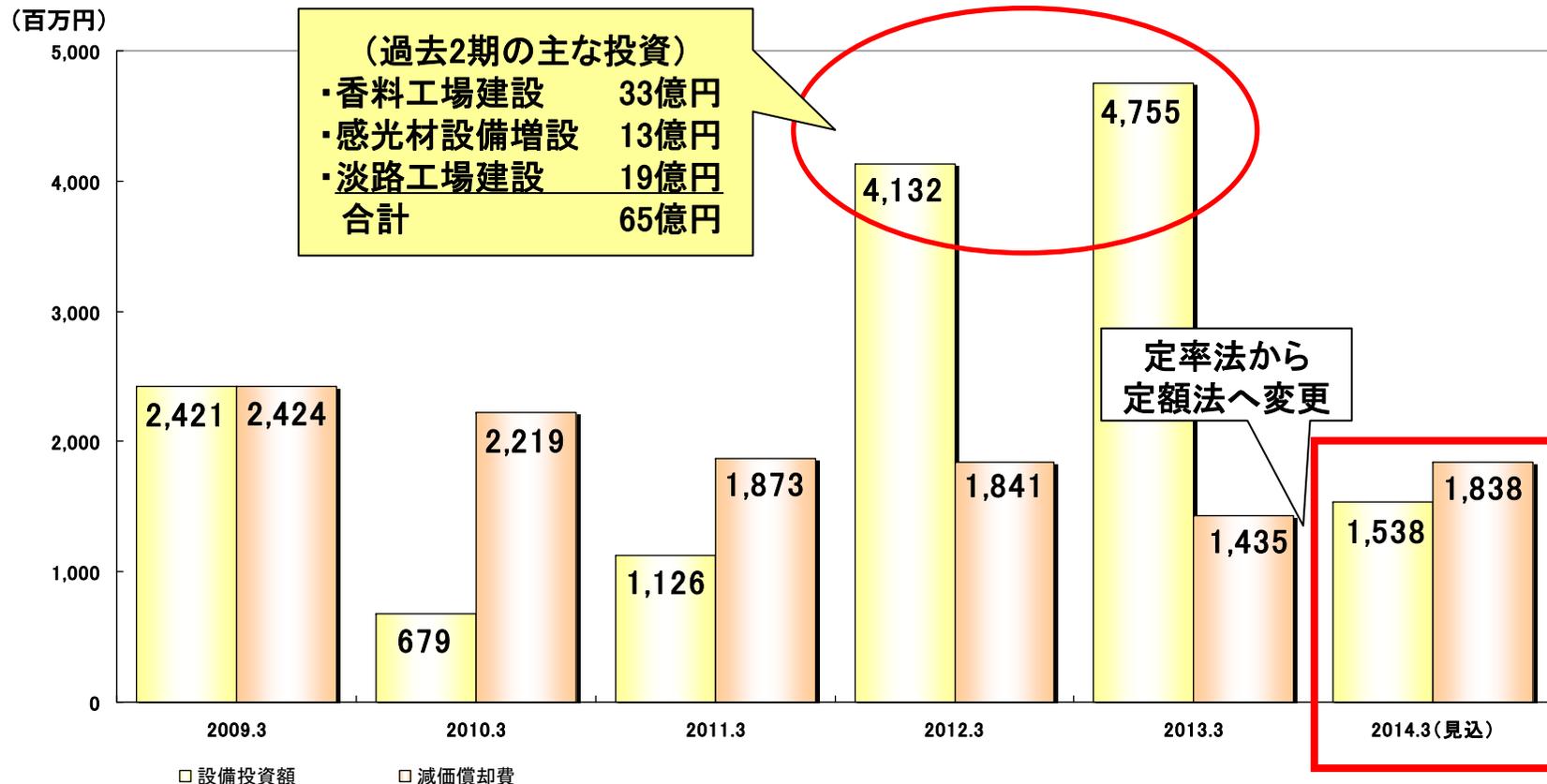
科目 (百万円)	2014年 3月期(連結) 上期実績	2014年 3月期(連結) 下期業績予想	2014年 3月期(連結) 通期業績予想	2013年 3月期(連結) 実績	前期比 増減額
売上高	7,162	7,738	14,900	14,141	+759
営業利益	△346	△324	△670	271	△941
経常利益	△335	△235	△570	135	△705
当期純利益	△345	△245	△590	43	△633

想定為替レート:USD=98円
(上期実績平均:USD=97.99)

3. 今後の展望について

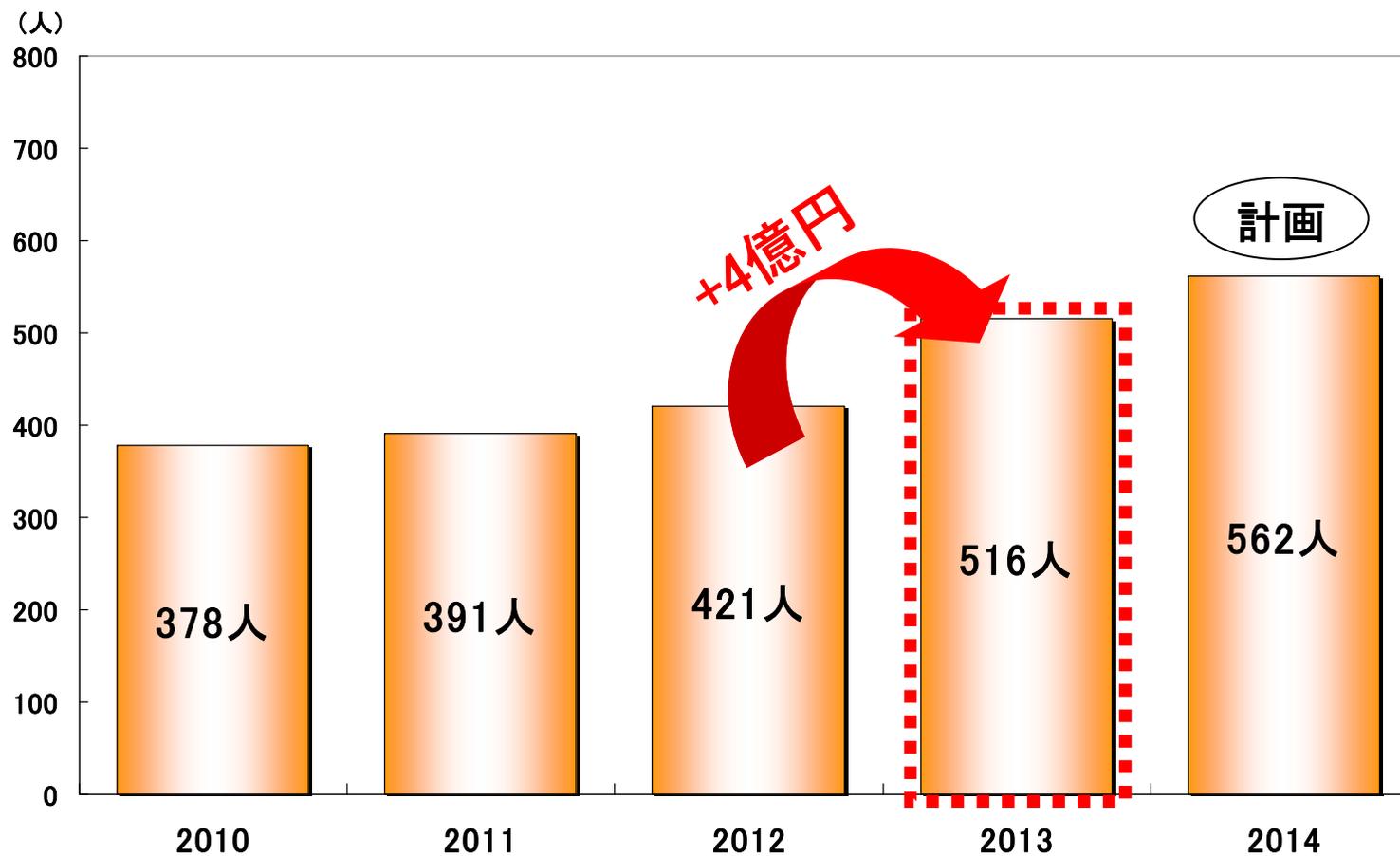
■ 設備投資と減価償却費の推移および計画

- ・大型投資は前期末で完了(香料工場33億円、感光材設備13億円、淡路工場19億円)
- ・今期の設備投資は償却費の範囲内で計画。(投資15億円<償却費18億円)
- ・減価償却費は前期比+4億円の見込み。



■ 人員の推移について

- ・事業拡大にともない、技術系および生産系を中心に採用を強化
- ・人件費総額は前期比+4億円/年の見通し

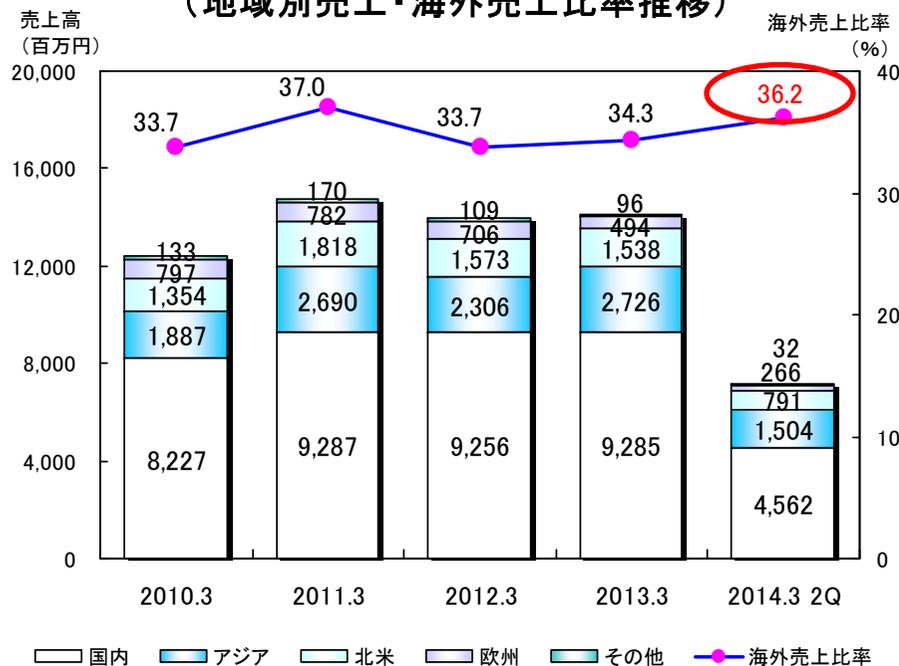


■ 為替および原材料価格の影響

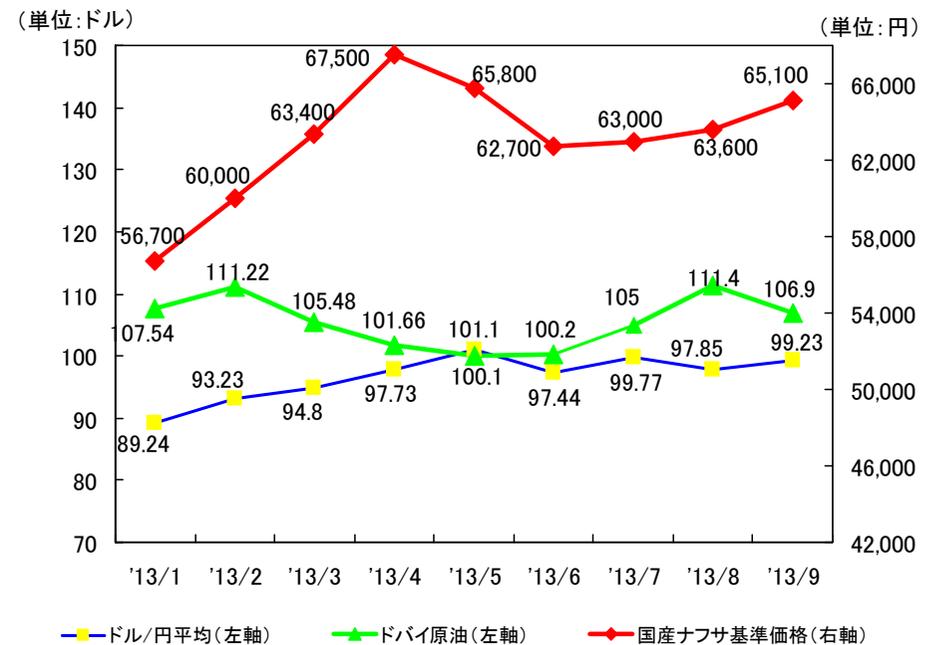
海外売上比率の上昇・調達価格の安定が追い風

1円/USDの売上変動=40百万円（2014年3月期 為替感応度）※原材料上昇込み

(地域別売上・海外売上比率推移)



(直近の原材料トレンド)



・海外売上比率は上昇傾向
(アジア向け堅調)

・ドル建ベースのドバイ原油は横ばい
・国内ナフサ価格も5月をピークに横ばい
・調達価格は、年初上昇したものの足元は安定

■ 感光材 用途別一覧

・半導体の微細加工技術が進化し、20nmレベルまで量産化
 ・現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階(当社注力領域)

光源	LCDパネル用		半導体用						
	g線	i線	既存品				先端品		開発中
			g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	ArF ダブルパターニング	EUV
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~16nm
用途	テレビ用パネル	小型パネル	パワー半導体	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ	4コア GBメモリ TBメモリ		最先端メモリ・ プロセッサ
市場	新興国の 需要増 価格下落	LTPS (PDA,カーナビ、 携帯電話) の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	急拡大		プロトタイプ露光機 販売中 材料開発中

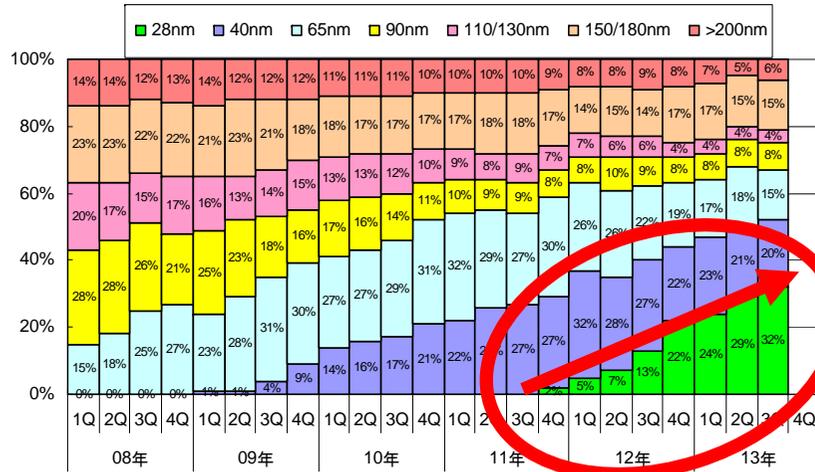


当社製品・研究開発のアプローチ範囲

■ 半導体市場の動向

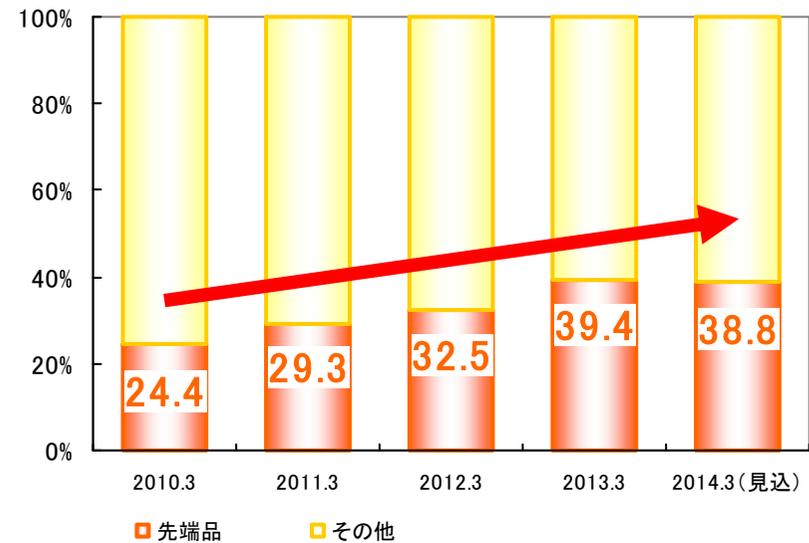
- ・市場のニーズを捉え、微細化に必要な先端品を拡充
- ・今後も売上の増加を見込む(先端品の売上比率40%弱)

■ 線幅別売上シェアの推移(2008年~2013年)



出典:台湾半導体大手 開示資料

■ 感光材部門売上 先端品比率推移

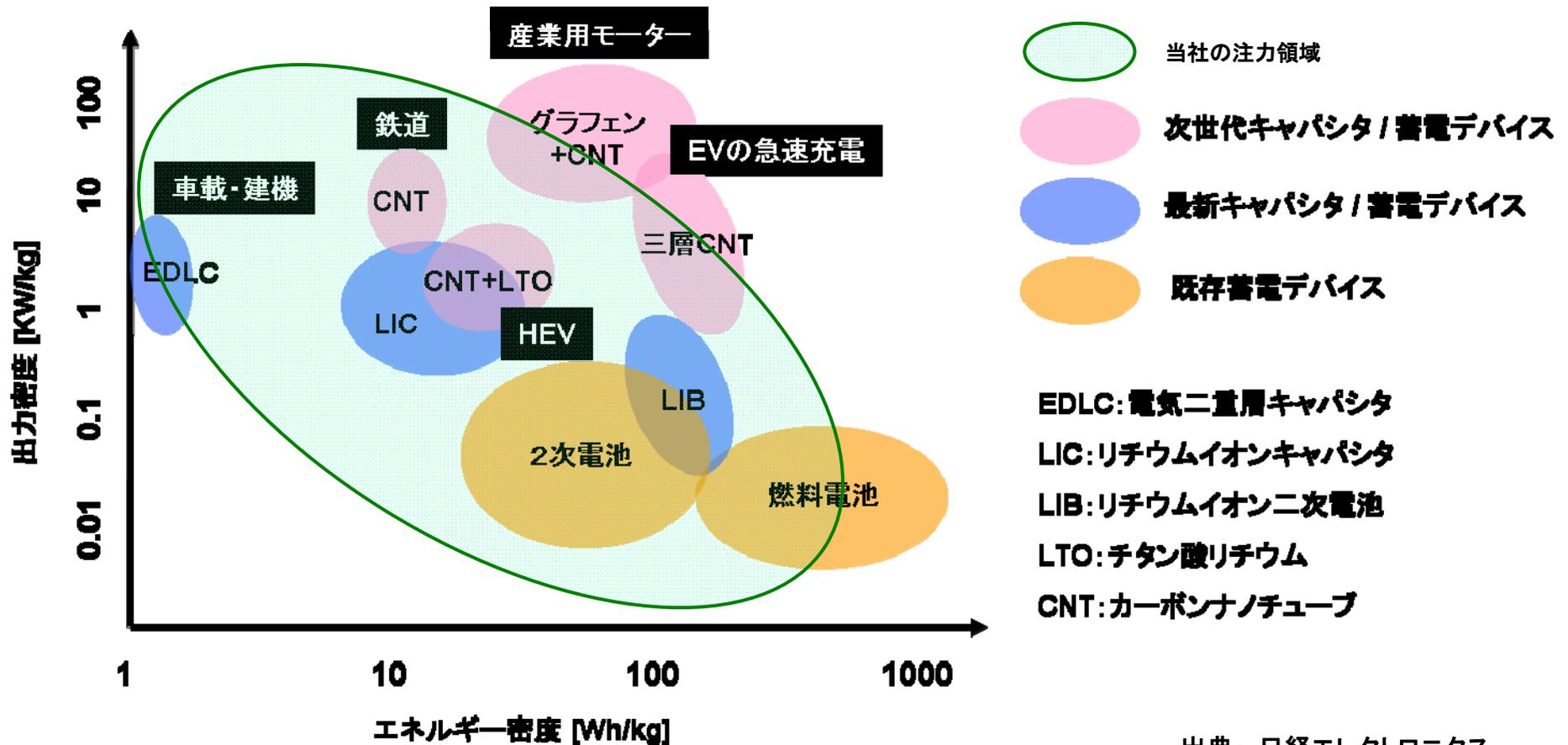


・110~200nmレベルは底堅く推移
(半導体積層化にともなう需要)

・微細化のニーズが高まり、28nmのシェアが増加
・EUVの開発遅れにより、ArF技術を延命化

蓄電デバイスの開発状況

次世代・最新デバイス向けの材料開発に注力



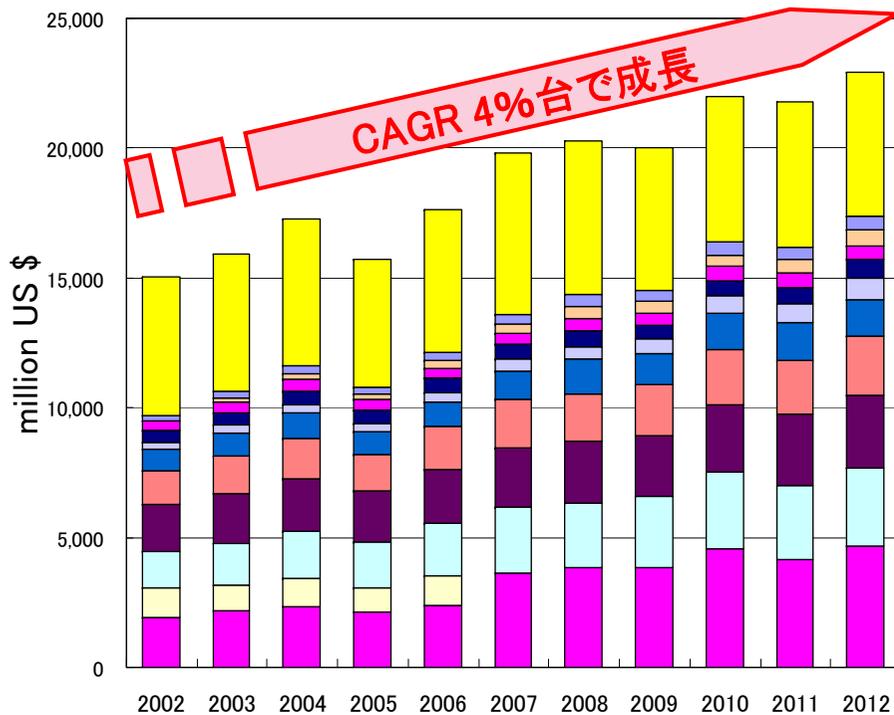
- 当社の注力領域
 - 次世代キャパシタ/蓄電デバイス
 - 最新キャパシタ/蓄電デバイス
 - 既存蓄電デバイス
- EDLC: 電気二重層キャパシタ
 LIC: リチウムイオンキャパシタ
 LIB: リチウムイオン二次電池
 LTO: チタン酸リチウム
 CNT: カーボンナノチューブ

出典: 日経エレクトロニクス
2012年9月号に一部加筆

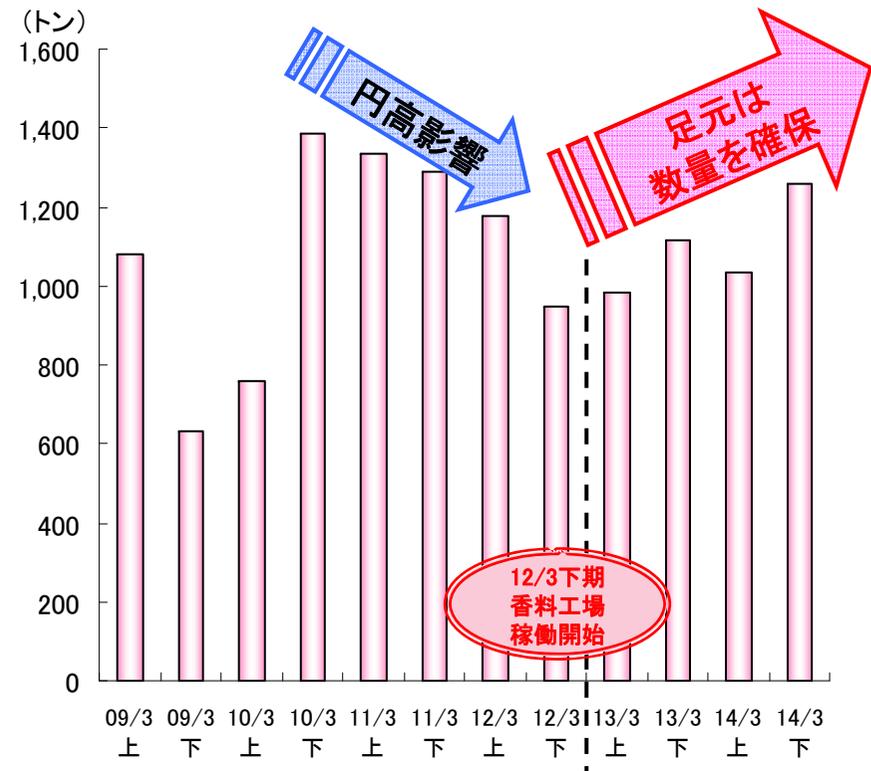
■ 香料市場と当社香料部門の動向

- ・香料の市場規模は新興国の経済成長が牽引し、平均4%台で成長
- ・当社香料部門も、足元は数量を確保し回復傾向

世界の香料市場の推移



当社香料部門の売上高と数量の推移



■ 関西エリアの状況と淡路工場概要

関西エリアは、関東に比べ二次電池メーカーや電子・電機メーカーが数多く集積
⇒新工場をアピールし、需要を早期に取り込む

関西地区の主要な
リチウムイオン電池生産拠点



■ 淡路工場概要

所在地: 兵庫県淡路市生穂新島9番1
 面積: 50,500㎡
 総工費: 18.5億円
 生産能力: 3,000t/月
 就業員数: 26名(竣工日現在)
 主要製品: リチウムイオン電池製造工程で使用するプロセス剤
 電子材料(IC・FPD)製造工程で使用するプロセス剤

蒸留塔・タンク



■ ロジスティック部門 概要 (ファインケミカル専用倉庫業)

国内ナフサ基準価格の高騰により、高い需要が継続
交通アクセス、第一種石油類の保有タンク数等の強みから高稼働継続を見込む

今後の展望

輸入品は供給体制が重要

輸入量+500t以上のタンク容量が必要となるため、
第一石油類の貯蔵可能な1000KLタンクの保有が
第一条件となっている

高浜油槽所は今後も高稼働を予想
(タンク稼働率は現状100%)



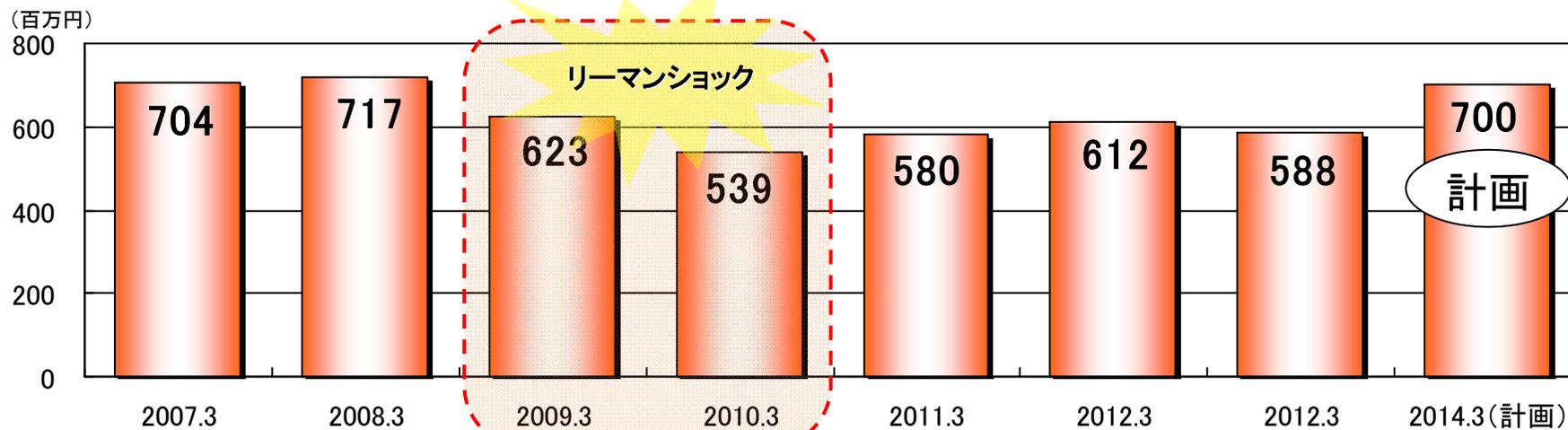
首都高速へ2分でアクセスできる最適な立地



月間200隻、1日200台に対応可能な高機能物流拠点

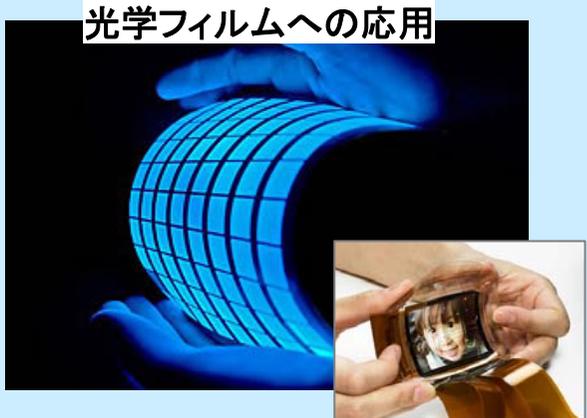
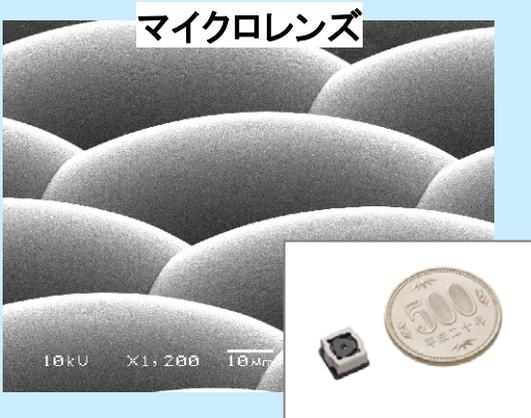
■ 研究開発費の推移

研究開発は当社の生命線、毎年5～7億円を投資



■ 新規開発テーマ(一例)

新機能材の開発





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。